


氏名	打越 正行
学位の種類	博士（社会学）
学位記番号	人博 第90号
学位授与の日付	平成28年4月21日
課程・論文の別	学位規則第4条第2項該当
学位論文題名	沖縄の下層若者と <地元> の社会学 —下層労働の再生産と下層若者文化の再編—
論文審査委員	主査 丹野 清人 委員 宮台 真司 委員 玉野 和志

【論文の内容の要旨】

論文要旨

氏名 打越 正行 

本稿の課題は、沖縄の下層若者の生活と労働について考察することにある。彼らは〈地元〉に生き、〈地元〉で働く。その〈地元〉は過酷な世界である。彼らが就労する建築業、性風俗業、違法就業等の下層労働は、2000年代に入って厳しさを増している。そこで、先輩から後輩への暴力や略奪は、容赦なく続いている。ではなぜ沖縄の下層若者は、労働と生活の面で過酷さをまず〈地元〉に居続けるのか。この問いが本稿の中心課題をなす。彼らは、暴力的な繋がりでがんじがらめになり（集団化）、地域移動が制限される（固定化）かたちで〈地元〉に滞留している。そのような困難を抱えつつ、〈地元〉はまわっている。それは、一般の下層労働者が流動的に労働移動し、生活が個人化されていくのとは対照的である。このような沖縄の下層若者の境遇を説明するために、〈地元〉を鍵概念とし、「下層若者が相互に全人格的に関わる社会の基盤」と定義し、2つの仮説を設定し、その実証をめざす。

仮説1は、「〈地元〉を通じて、下層労働の再生産は展開される」である。沖縄の下層若者は、生活資源を得るために〈地元〉に集う。同時に彼らは、〈地元〉で拘束される。〈地元〉で結ばれる全人格的な繋がりによって、彼らは、下層労働に適合的な働き方を身につけていく。〈地元〉は、彼らの生活世界であり、同時に、過酷な下層労働の供給源となっている。

仮説2は、「〈地元〉を通じて、下層若者文化は再編される。その文化は解体へ向かうのではなく、より不安定なものへと再編される」である。そこでのつながりは、慣習的な同郷の先輩－後輩関係を前提としたり、過去から将来にわたって蓄積されるものではない。そのような前提や蓄積を欠いた状態のなかで先輩－後輩関係をつなぎとめる手法（のひとつ）が暴力である。暴力によって、先輩－後輩関係は、短期的ではあるが繋ぎ止められる。ただし暴力が通用する関係は、より小規模の集団に限られ、それに連動した不安定な時間感覚が共有される。

このように〈地元〉は、下層労働を再生産し、その文化は、不安定なまま再編されてまわっている。不安定ながらそこに労働と生活の見通しがある。そのことが、彼らが〈地元〉に滞留する理由となっている。

キーワード

下層若者、〈地元〉、沖縄